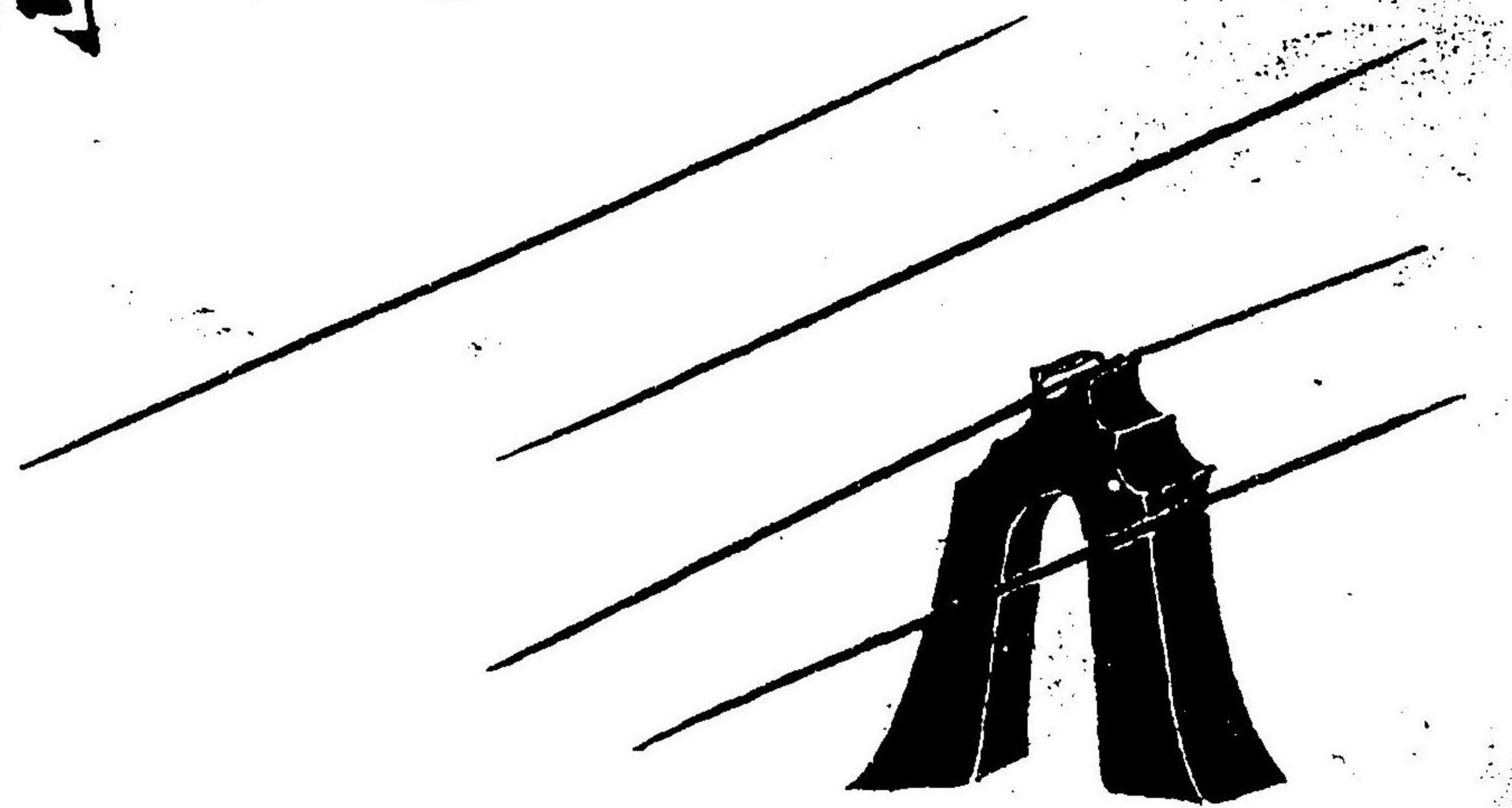


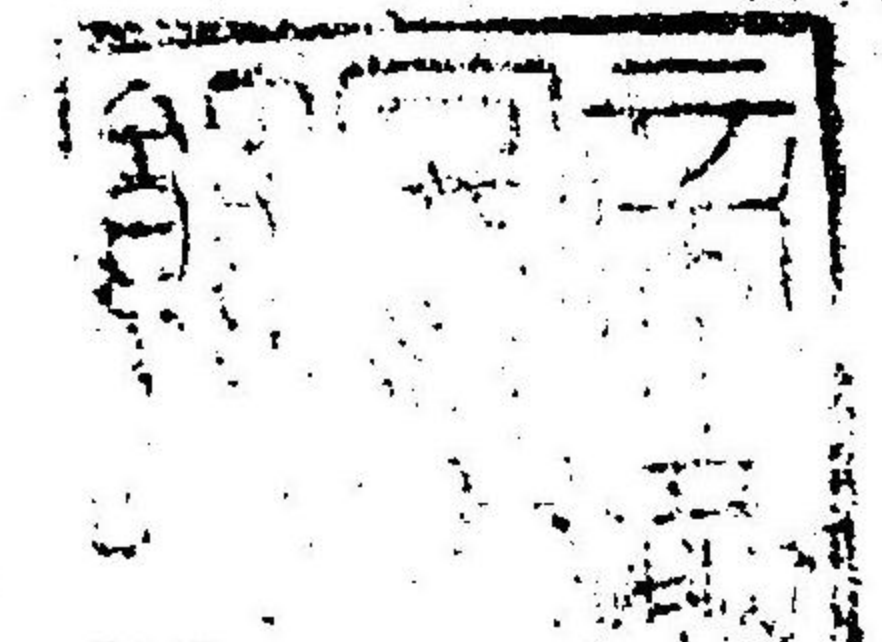
古川清治編

箏曲備忘

八段之調



301
306



例言

本編は箏曲を習はんとする者の豫習の爲又後日の記録の爲に特に作譜せるものなれば極めて簡明を旨とし如何なる人にも學習し易き様にせり。

規約及び説明

- 1 ……譜表 は五線を用ひ其の上下に各々一本の加線を施したるものにして其の線と間とは譜の初に示すが如く順次琴の十三絃に相應するものあれば泰西の譜表と同一視す可からず。但し音符は泰西のものを採用せり。
- 2 ……黒字の音符は母指にて彈じ朱字の音符は中指を以て彈じ朱字音符の囲りは黒の輪廓を有するものは食指を以て彈するものとす。尙詳細を要する場合には1・2・3の數字を付し1なる數字を有するものは母指、2なる數字を有するものは食指、3なる數字を有するものは中指にて彈するものとす。
- 3 ……音符の右下に小音符を付し括弧を以て連ねたるものは掩即ち(あとおし)を表はし、若しも此の場合に小音符は二個よりなるときは押したる指を更に放すものとす。尙同線或は同間に於て二個の音符を括弧を以て結合し、後の音符に(+)なる記號を有するときは、矢張掩を表はすものとす。
- 4 ……音符の左に(+)なる記號を有するものは押(おしいろ)を意味し、本記號を有せざるものには、たとへ同小節内同線上又は同間にある音符と雖も押す事なし。
- 5 ……(ス)なる記號を有するものは排爪(すくいずめ)を意味し即ち母指にて擲みなり。
- 6 ……連の時は三指共に前より向へ撫でるなり。
- 7 ……輪連の時は中指及び食指の爪の側(ツキ)にて絃(普通は五、六、の絃)を右より左へすり、前へ手を納むなり。
- 8 ……押合の時は二絃の内、向の絃を前の絃と同音になるまで押し、而して母指を以て二絃を同時に彈するものとす。
- 9 ……重押の時は彈したる後二度續けて其の絃を押すあり。

注意

此の譜により尺八を吹奏する場合に、同一の符尾に二個の朱字の音符(或は二個の黒輪廓を有する朱字音符)を有するものは其の低き方の音を吹奏す可し。尙其他の場合は吹奏者の力に一任せん。

以上 編者記す




44.12.15
内交

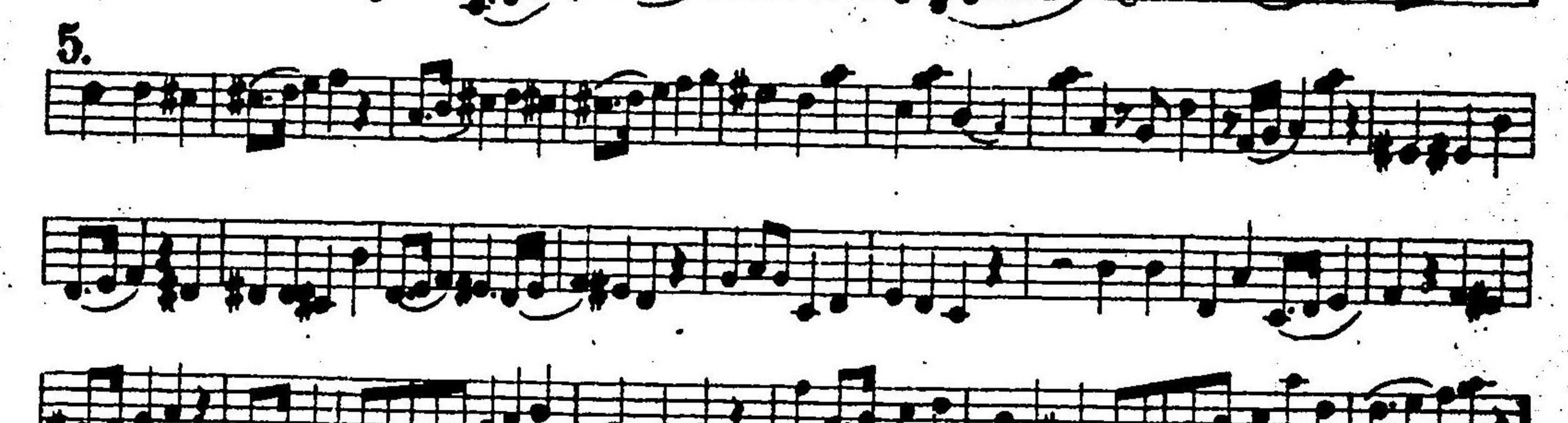
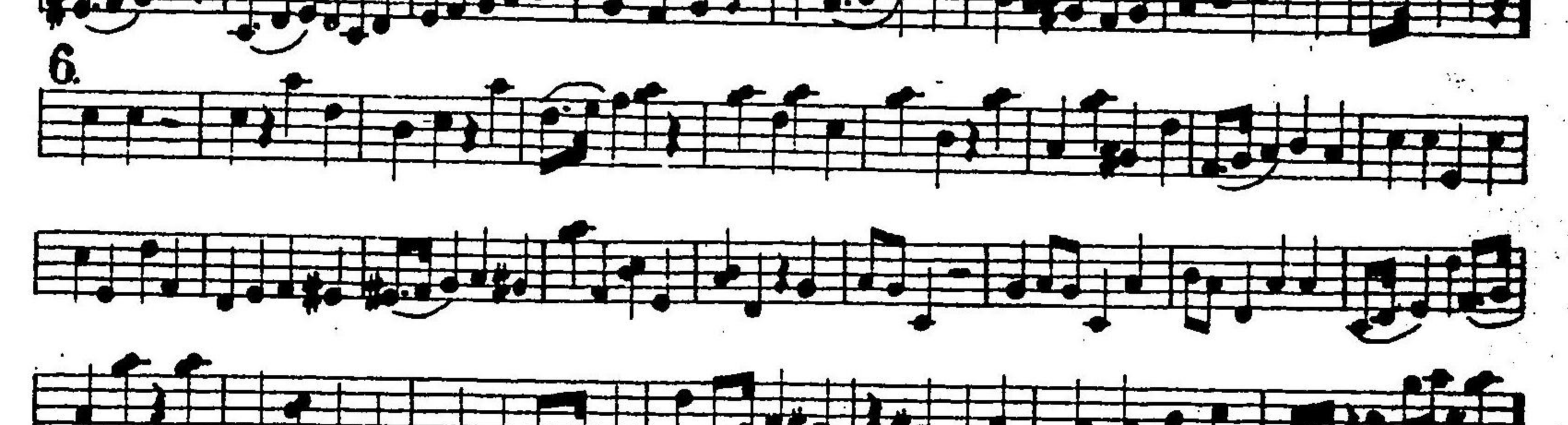
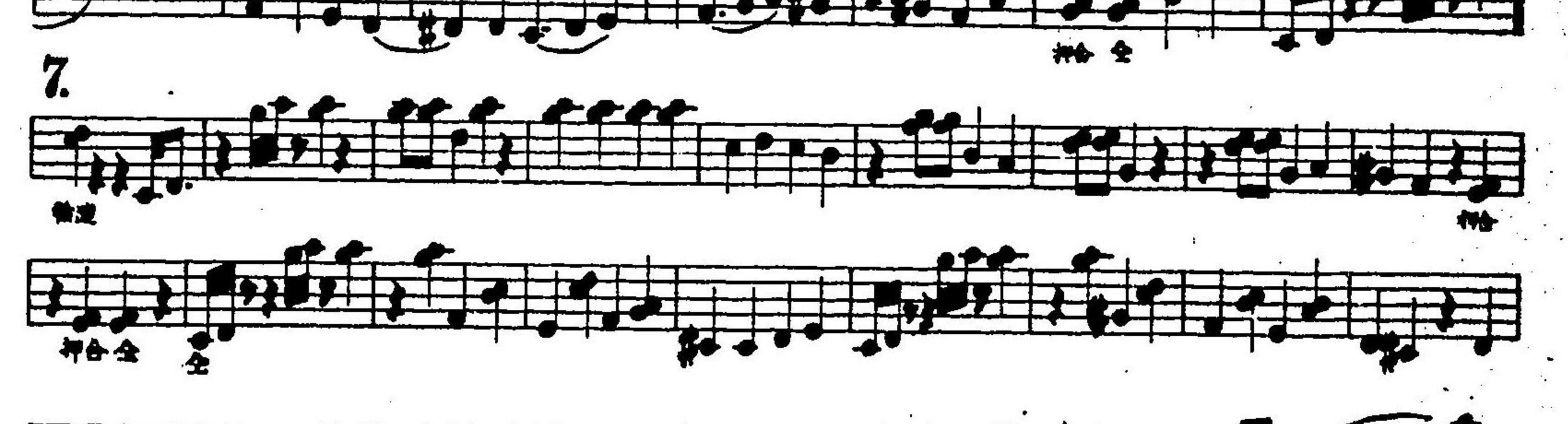
八段之調

平調子

第三段と三味線ノ一

一ニ三四五六七八九十十半中
又八 (レリロウレウリロウレウヒ全)

1. 
2. 
3. 

4. 
5. 
6. 
7. 
8. 

箏曲備忘 (古川清治編)

六段の調	郵定 金四十錢
八段の調	郵定 金四十錢
十二段の調	郵定 金四十錢
千島の曲替手付	郵定 金三十錢
春の曲	近刊
八千代獅子	近刊
以下續刊	

大賣捌所 東京神田 東京堂書店

此の曲を作譜するに當り
多大の援助を與へられし事を
本南無千餘様に謝し
尚上田ますみ女史及び河野清
女史に厚意を謝す
編者記す

明治四十四年十二月一日印刷
明治四十四年十二月十二日發行

不許複製

編者兼 發行者 東京 古川清治
東京市芝區三田小山町二番地
印刷者 飯村喜多治
東京市芝區三田小山町二番地
印刷所 豊盛堂石版部

大賣捌所 東京市神田區美神保町三番地 東京堂書店

301
306